

患者さまへ

「虚血性脳卒中における tPA 血栓溶解療法、及びその他の治療における予後良好を予測する因子」を研究しています

医療の向上のため、患者さまの診療録(カルテ)情報を調査・観察させていただくことがあります。



この研究とは・・・

これまで当院に脳卒中で入院された患者さまの年齢や性別、臨床症状や脳 MRI 等の画像検査、血液検査結果など入院時の基本臨床データと、受けられた治療法と効果、その後の臨床経過を調べさせていただきます。脳卒中の予後を入院時データで予想できるか、また脳卒中のタイプ別に効果的な治療法が存在するかどうか調べるのが目的です。この研究のために新たな薬の投与や検査を受けていただくことはありません。

本研究は東京医科歯科大学神経内科を中心とした多施設共同研究（武蔵野赤十字病院、土浦協同病院、JA とりで総合医療センター）です。対象患者さんのデータは名前や住所などの個人情報削除した状態で厳重に管理され、これらの個人情報が漏洩することはありません。

具体的な研究内容は・・・

脳卒中は様々な分類法に基づいて分類して考えることが多い。本邦では超急性期（発症 4.5 時間以内）の tPA を用いた血栓溶解療法から、点滴の抗血小板療法や抗凝固療法、内服治療など様々な治療が脳卒中に対して行われている。

この研究の目的は、各々の脳卒中タイプで、どの治療法が最も効果的か調べるものである。特に超急性期 tPA 治療は劇的な効果が期待できる反面、脳出血などのリスクも高く、どのタイプの脳卒中に tPA 治療が最も良い適応になるか解っておくことは非常に有意義である。

研究の方法は、脳卒中治療を受けた患者さまの治療法と臨床経過をカルテより調べ、著明な改善（あるいは悪化）が認められた症例について、入院時の基本臨床データを解析する方法で、その治療法の最適例を検討、決定いたします。

※この研究の成果は、個人情報を保護した形で学会や論文で発表されることがあります。

※この調査は、「ヘルシンキ宣言」や「疫学研究に関する倫理指針」に従って倫理委員会の承認の下で実施されます。

対象と調査期間

2009 年 2 月～2013 年 3 月の間に脳卒中で当院に入院された患者さんが対象です。

個人情報の保護について

患者さまの個人情報を守ることは「個人情報の保護に関する法律」に定められて、あなたの氏名などの個人を特定する情報は調査の対象とはならず、一切公表されません。

この研究へのご協力について

本調査に同意されない方はいつでも担当医までお申し出ください。同意されないことをお申し出になられても、そのために不利益を受けることは一切ありませんのでご安心ください。

ご意見、ご質問などがある場合は担当医または下記窓口までお問い合わせください。
調査実施責任者：神経内科部長 富満弘之 TEL(0297)74-5551